

[浦河べてるの家](#)

[自己病名](#)を付ける

[人間アレルギー症候群](#)

病名というのは治療の対象とされるラベルのようなものですが、それをみずからつけることによって、病気を自分が抱えている「一つの苦勞」「ある一つの状態」として、自分の手の中に取り戻すことができるのです。

自分と自分が抱えている問題を切り離して考える
その問題を抱えている私は、ダメな存在ではない

ひきこもりで言えば、ひきこもりというものを肯定するということと、ひきこもりにあるその人を肯定するということですよ。

けれども、そうやって文体を変えて、異なる二つの世界をつなぐことが私の仕事だと考えています。その結果、傷を相手に与えてしまうこともある。

そういう傷を与えたことに関しては正当化されてはいけないと思います。でも、そういう人々の傷が私に次の文章を書かせていくんだと思います。今はそれしか言えません。

自己病名を決めよう！

当事者研究では、自己病名をつけるところからはじまります。この作業は、主治医からもらった医学的な病名ではなく、自分の苦勞の実感に沿って仲間や関係者と一緒になって考える、楽しくスリリングなものです。ポイントはわかりやすさとユーモア精神です。週末になるとお金が足らなくなり、体調を崩す経験を繰り返していた当事者の自己病名は「統合失調症週末金欠型」です。研究過程で変わってもOKです。

浦河べてるの家では、幻

聴や幻視、被害妄想などの精神障害で苦しむ人たちが、自分の苦しみを安心してぼろっと話し出せる場所作りを20年以上に渡ってこつこつと作り上げてきた。具体的には幻聴・幻覚・被害妄想に苦しむ人たちが“自己病名”を付けたりすることで本当の症状を安心して語れるようにして、あとは本人が自力で問題を感じられるようになるような支援のネットワークが作り上げられている。ちなみに私の自己病名は“統合失調症・安全なクルマ作りと言ったら『ぶっ殺す』と言った元上司の声がよみがえる型”だが、この自己病名で自己紹介をすると多くの方々が「なるほどね・・・」と頷いてくれるため、自己紹介で病状を説明しているうちに苦しくて動けなくなることが少なくなり、自己病名を付ける以前よりも友達が増えた

事業のキーワード

「女性」+「過疎」+「金欠」+「病気」

むじゅん社の理念

- ・ 虚しさを絆に
- ・ 安心して語れる、サボれる、つぶれる会社
- ・ 心と体にやさしい会社
- ・ 命がけの苦勞が資本
- ・ 期待されない会社
- ・ いつでも廃業

社名：むじゅん社 (英名：mujun.inc)

資本金：100,000円 + 病気

代表：山本賀代 (自己病名：自分のコントロール障害)

- ・ 生きていることに対する肯定感の欠如
- ・ 自分という存在が、人を傷つけることへの不安、傷つけられる不安
- ・ 心の根底には「人から必要とされたい」「認められたい」といった、目に見えない願望

起業の進め方

1. 起業理念を考える
2. キーワードを考える
3. 「苦勞の先取り」と「弱さの情報公開」

- 4 . 事業内容を決めるー自分の体験、趣味、こだわり、特技、病気・・・何でも活用
- 5 . 三度の飯よりミーティングの具体化

キーワード

- ・ 「男性」
- ・ 「意志」
- ・ 「地方」
- ・ 「悩み」

起業理念

- 「虚しさを絆に」
- 「身体とところに優しい会社づくり」
- 「いつでも廃業」
- 「期待されない会社づくり」
- 「命がけの苦勞の体験」が資本
- 「安心してサボれる・潰れる・通える 語れる」会社づくり

「苦勞の先取り」と「弱さの情報公開」

- ・ 完全にマイナスの“お客さん”にジャックされる！
- ・ 人付き合いで、苦勞する
- ・ 被害妄想がくる
- ・ 辛くなったらお酒に依存する
- ・ いつの間にか、孤立する
- ・ 自分の感情を見せないようにしてアップアップになる

それで順調！！

事業の内容

- ・ 音楽CDの作成
- ・ ビデオの作成
- ・ 翻訳・通訳
- ・ 出版
- ・ データ入力
- ・ 研修の企画
- ・ 安心グッズの企画・販売
- ・ 音楽CDの作成出版

安心してサボれる職場づくり

自らの経験を活かした職場づくり

個人の体調に合わせた仕事やローテーション

「指図や指導」から「励ましと協力」の関係作り

対等な関係

「手を動かす」より「口を動かす」

みんなで経営ー情報の公開と参加

競わない、張り合わない

弱さの情報公開

ウツソウ、0か100か前後裁断、プツツン症

自己病名例

- ・ 爆発型エンターテイナー症候群
- ・ 統合失調症“週末金欠型”
- ・ 幸せ恐怖症
- ・ エネルギー切れソワソワ症
- ・ 自信なし、生きていきにくい症候群
- ・ 他人の評価依存型、落ち込みスパイラル病